

## 文化遺産

1813年 カメハメハ大王お付きのスペイン人通訳兼内科医ドンフランシスコ デ パウラ イ マリン により初めてオアフ島のホノルルに観賞用のコーヒーの木が植えられました。それ以来185年間にもわたりコーヒーの木から収穫されたコーヒーチェリーがどのように現在のハワイ島コナ地域の経済の真髄になったのかご存知ですか。

### コナコーヒー産業の幕開け

1828年 アメリカ人宣教師サミエル ラグルスによりアラビカ種のコーヒーの木が初めてハワイ島コナ地域にオアフ島の農園より運び出され移植されました。幸運にもコナ地域の風土そして忍耐強い移民農夫達の汗と努力によりコナコーヒー産業は現在の大成功の地位を獲得しました。

コナコーヒーの風味の中には他の数あるコーヒーとは全くかけ離れた深いこく（フルボディ）があります。そして上質な赤く熟したコーヒーチェリーだけを手摘みすることで生まれる最高級の品質を味わうことが出来ます。

1840年 初めてハワイ島コナ地域に育つコーヒーが書物に紹介されました。その頃はコーヒーの木はハワイ島の至る所で植えられていましたが特にコナ地域で植えられている木から収穫されるコーヒーチェリーは最高級と称されました。

これらの熱帯コーヒー農園で働く移民労働者達の仕事は常に困難で過酷なものでした。

なぜなら植樹から収穫まですべて手作業で行われなければならなかったからです。

1800年中期から後期にかけて白人地主所有のコーヒー大農園では主にハワイ島原住民や中国人移民労働者達が働いていました。

そして最初の日本人移民労働者達が彼らと共にコーヒー農園で働き始めたのはちょうどこの頃からです。

1880年から1890年 日本人移民労働者達がコナ地域のコーヒー農園で彼らのコーヒー文化遺産を築き始めました。

1899年 世界のコーヒー市場が暴落しそれと同時それまでの白人地主経営の大農園は3-5エーカー(約1226-6130坪)ごとに区分され移民労働者達に貸し出されました。移民小作農の始まりです。これらの小作農民は借地料を払うためその年の収穫の半分を地主に収めなければなりませんでした。

1910年 この頃には忍耐強い日本人移民労働者達経営のコーヒー農園だけが残りました。

1920年 最初のフィリピン人移民労働者達がこれらのコーヒー農園で季節労働者として働き始めました。コーヒーチェリー収穫後の春には彼らはサトウキビ農園で働きました。

2008年 現在でもハワイ島コナ地域ではこれらの初代コーヒー農夫達が残したこの偉大なコナコーヒー文化遺産を彼らの第5代目子孫達が見事に受け継ぎ継続しています。